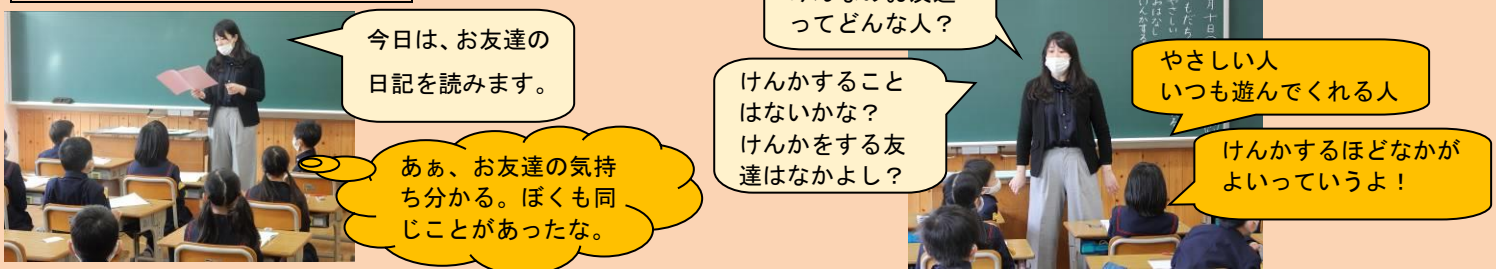


学 年	教科等	主題名及び教材名	日 時
第1学年	道徳科	友達を大切に思う気持ち（「二わのことり」：日本文教出版）	令和3年2月10日（水）
本時に おける 「学びの つながり」	●研究内容1：問題意識をもたせる導入の在り方		
	子どもは、1日のなかで、多くの時間を友達と過ごしている。学校生活のなかで、友達と遊ぶことや一緒に学ぶことが楽しいと思うようになっており、友達がいることのよさも感じている。また、喧嘩をすることがあっても自分の気持ちを伝えて仲直りしたり、友達のことを許したりしながら友達関係を築いてきた。 そこで本時の導入では、友達について書かれている日記を紹介した後に「お友達ってどんな人？」と問い、友達についての今の価値観を共有する。その後、友達と共に過ごすことが楽しい気持ちにつながっていることやときには喧嘩をしてもいい嫌な思いをすること等に気付かせ、友達と仲よくすることとはどのようなことかについて問題意識をもつことができるようにする。		
	■研究内容2：子どもが学びをつなぐための授業の展開		
	本時にねらう「子どもが学びをつなぐ姿」とは、自分と友達とのかかわりをふりかえり、友達と仲よくすることについて考える姿である。そのために、板書と発問について以下のような手立てを講じる。 板書では、場面の状況について挿絵を使って黒板に整理することで、登場人物の関係や心情を具体的に考えることができるようにする。 みそさざいがうぐいすの家を抜け出した場面では、やまがらの家へ行った理由を考えさせた後、「たくさんの友達が一緒にいるし、御馳走もあるから、いれればいいんじゃない？」と問い返すことで、やまがらのことを思うと心から楽しむことができる気持ちやどうすればよいか迷う気持ち等について考えを深めることができるようにする。やまがらが涙を流したときの気持ちを共感的に考えさせた後、やまがらとみそさざいの会話について、役割演技をとおして考えさせることで、友達を大切に思う気持ちや友達と仲よくすることのよさを感じることができるようにする。最後に、役割演技を基に、友情について自分自身の生活とつなげて考えられるようにする。		

教材のあらすじ

主人公のみそさざいは、同じ日に行われる、「うぐいすの家での音楽会の練習」と「やまがらの家での誕生会」に誘われ、どちらに行くか迷ってしまう。みそさざいは、明るく楽しそうなところに住んでいるうぐいすの家へ他の友達と一緒にいくことに決めた。しかし、うぐいすの家でみんなと歌ったり御馳走を食べたりしても楽しいと思えず、うぐいすの家をこっそり抜け出し、やまがらの家へ会いに行った。みそさざいが来てくれたことにやまがらは涙を浮かべて喜ぶのであった。

問題意識をもたせる導入の在り方



今日は、お友達の日記を読みます。

みんなのお友達ってどんな人？

やさしい人
いつも遊んでくれる人

けんかすることは
ないかな？
けんかをする友
達はなかよし？

ああ、お友達の気持ち分かる。ぼくも同じことがあったな。

けんかするほどなか
よいっていうよ！

導入では、友達とのかかわりをとおして感じたことが書かれている日記を紹介することで、自分自身の日常と本時の内容をつなげて考えるきっかけとなった。子どもの今の友達に対する価値観をもとに、問題意識へとつなぐことができた。

子どもが学びをつなぐための授業の展開



みなさんといた方が
楽しいんじゃない？

みそさざいさんは、
うぐいすさんのところ
にいたときからずっと
もやもやしてて、やま
がらさんのことが気
になってたんだよ。

2人はどんなお話しを
したのかな。

遅れてごめんね。
一緒にお祝いをしよう。

いいよ。
来てくれて
ありがとう。

授業のなかで、板書を基に自分の思いを伝える子どもの姿が見られた。登場人物同士の関係を基にみそさざいの迷う気持ちを表出させるには、黒板に挿絵や矢印を使って整理することは有効な手立てであった。

みそさざいとやまがらの気持ちを役割演技をとおして考えさせることで、友達を大切に思う気持ちが表れていた。役割演技を見ている子どもたちも友達を思う気持ちに共感することができていた。

【授業をふりかえっての考察】

応答予想を立てた際に、うぐいすの家に行ったみそさざいの気持ちに共感させることがポイントであると考えていた。しかし、子どもの思いは、やまがらがかわいそうだという気持ちが大きく、十分に深めることができなかった。本教材は、登場人物が多く、挿絵や矢印を使って黒板に整理することは子どもが考えを整理するためには有効であった。今後は、発達の段階をふまえた、子どもの思いを深める発問や問い返しについて分析し、明確にしていく必要がある。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○ ねらい

B 10	【友情、信頼】	みそさざいの行動の理由やみそさざいとやまがらの気持ちを共感的・分析的に考えることをとおして、友達のことを思い、行動することの大切さに気づき、仲よく生活していこうとする心情を育む。
	友達と仲よくし、助け合うこと。	

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
1 日常の経験とあらすじを基に、問題意識をもつ。 ○ 友達について ・ 休み時間に遊ぶ。 ・ 困っていたら助ける。 ・ けんかもするけど、仲直りをする。 等 ○ 学習テーマ 友達と仲よくなるには… 2 読み物教材「二わのことり」を視聴し、話し合う。 ○ うぐいすの家へ向かっているときのみそさざいの気持ちについて ◇ みそさざいさんは、うぐいすさんの家に向かいながらどんなことを考えていたのかな。 ・ 音楽会の練習をしなきゃいけないから。 ・ やまがらが気になったけど、みんなと一緒にうぐいすさんのところへ行きたかった。 等 ○ やまがらの家に行ったみそさざいの気持ちについて ◇ どうして、みそさざいさんはやまがらのところへ行きたかったのかな。 ・ やまがらが1人でいるのがかわいそう。 ・ みんなといても心がもやもやする。 ・ お誕生日に1人で過ごしているのかと心配になってきた。 等 ○ やまがらとみそさざいの気持ちについて ◇ やまがらは涙を流しながら、どのようなことを思っていたのかな。 ・ 来てくれて本当に嬉しい。ありがとう。 ・ ぼくもみそさざいさんのことを大切にする。 ・ なんでみんな来てくれなかったの。 等 ◇ この後、やまがらさんとみそさざいさんは、どのようなことを話したと思いますか。 ・ 来てくれてありがとう。 ・ 悲しい思いをさせて、ごめんね。 ・ これからもずっと仲よくしよう。 等 3 役割演技を基に、友情について考える。 ○ 友達と仲よくするには ・ 優しくしてあげる。 ・ 心配してあげる。 等 4 主題に対する自分なりの答えをもつ。 ○ これからの友達とのかかわりについて ・ これからも友達には優しくしてあげたいな。 ・ 優しくしてくれる友達を大切にしよう。 等	● 友達について書かれている日記を基に「お友達ってどんな人？」と問い、自分の日常をふりかえらせることで、仲のよい友達とどのようなことをしているかを考えることができるようにする。 ● 自分と友達との関係を想起させ、今の友達についての思いを共有し、問題意識につなぐことができるようにする。 ○ 紙芝居で教材を区切って読み、場面の状況について挿絵を使って黒板に整理することで、登場人物の関係や登場人物の心情を具体的に考えることができるようにする。 ○ みそさざいの言い分に対して、「やまがらさんのことは考えていなかったの？」と問い返すことで、迷う気持ちや自分の気持ちを優先したいと思う気持ち等に共感することができるようにする。 ■ やまがらを思う気持ちに対して、「たくさんの友達が一緒にいるし、御馳走もあるから、いればいいんじゃない？」と問い返すことで、みそさざいの気持ちについて考えを深めることができるようにする。 ○ やまがらの気持ちを問い、友達が自分のことを考えて来てくれた喜びや1人で待っていたときの寂しさ等を引き出すことで、1人ぼっちのやまがらの気持ちに共感することができるようにする。 ■ その後の2人の会話について、役割演技をとおして考えさせることで、友達を大切に思う気持ちや友達と仲よくすることのよさを感じることができるようにする。 ■ 役割演技の後、「お話で誰が一番仲よし？」と問い、黒板に理由を整理しながらふりかえらせることで、テーマに対しての自分自身の答えを見出し、友達に対する思いを見つめ直すことができるようにする。 ○ ふりかえったことを全体で共有し、これから友達とどのように過ごしていきたいかを考えさせることで、友達と仲よくすることについて自分なりの答えをもつことができるようにする。

8 本時の評価規準

これまでの友達とのかかわりについて自分自身をふりかえり、友達の気持ちを考えた行動をして、仲よくしていこうとする思いを高めている。 【道徳的価値の理解を自分自身との関わりのなかで深めているか】